

《歳出の構成》

| 区分 | 平成24年度決算額 | 構成比 |
|--------|---------------|--------|
| 議会費 | 1億9,745万6千円 | 0.8% |
| 総務費 | 37億5,922万9千円 | 15.3% |
| 民生費 | 66億6,511万1千円 | 27.0% |
| 衛生費 | 30億3,358万8千円 | 12.3% |
| 労働費 | 1,305万 円 | 0.1% |
| 農林水産業費 | 12億3,882万6千円 | 5.0% |
| 商工費 | 1億4,041万9千円 | 0.6% |
| 土木費 | 22億4,602万1千円 | 9.1% |
| 消防費 | 8億3,582万4千円 | 3.4% |
| 教育費 | 24億7,037万5千円 | 10.0% |
| 災害復旧費 | 4,836万6千円 | 0.2% |
| 公債費 | 39億9,639万7千円 | 16.2% |
| 合計 | 246億4,466万2千円 | 100.0% |

【歳出】

歳出の決算額は、246億4,466万2千円で、前年度と比較して1億5,425万2千円（0.6ポイント）の減となりました。

目的別では、民生費が66億6,511万1千円で全体の27.0%で歳出の最も大きい割合を占めています。民生費の内訳としては、児童福祉費、高齢者福祉および障がい者福祉などに関する支出で、子どもから高齢者まで安心して暮らせる福祉のまちづくりに使われています。次いで、過去の投資的事業の財源として借り入れた市債の元利償還金である公債費が、39億9,639万7千円で全体の16.2%を占めています。平成24年度は、公的資金補償金免除繰上償還制度等を活用し、将来にわたる公債費負担の軽減を図りました。次いで、総務費が37億5,922万9千円で基金の積立や選挙費など全体の15.3%を占めています。

【歳入】

歳入の決算額は、253億3,236万円で、前年度と比較して5,862万8千円（0.2ポイント）の減となりました。

自主財源では、市税が景気低迷に伴う法人税割の減等により対前年度比1,999万8千円減少しましたが、繰入金で伊集院小学校校舎改築事業や公営住宅建設事業に伴う施設整備基金の繰入等により、対前年度比5億5,735万2千円増となり、対前年度比2億5,063万2千円（3.8ポイント）増加し、67億8,864万6千円となりました。

一方、依存財源では、地方交付税のうち普通交付税が対前年度比1億310万6千円減少したことや国庫支出金で、国の経済対策に伴う交付金事業が減少したこと、また、市債では、借入の抑制に努めたことや事業繰越などにより、対前年度比3億926万円（1.6ポイント）減少しました。

《歳入の構成》

| 区分 | 平成24年度決算額 | 構成比 |
|---------|---------------|--------|
| 市税 | 42億6,700万6千円 | 16.8% |
| 分担金・負担金 | 2億8,249万8千円 | 1.1% |
| 使用料・手数料 | 4億3,817万5千円 | 1.7% |
| 繰入金 | 10億2,464万9千円 | 4.1% |
| 繰越金 | 3億2,444万4千円 | 1.3% |
| 諸収入等 | 4億5,187万4千円 | 1.8% |
| 小計 | 67億8,864万6千円 | 26.8% |
| 地方交付税 | 99億4,832万6千円 | 39.3% |
| 国庫支出金 | 35億6,803万1千円 | 14.1% |
| 県支出金 | 18億6,733万9千円 | 7.4% |
| 市債 | 23億3,750万 円 | 9.2% |
| その他 | 8億2,251万8千円 | 3.2% |
| 小計 | 185億4,371万4千円 | 73.2% |
| 合計 | 253億3,236万 円 | 100.0% |

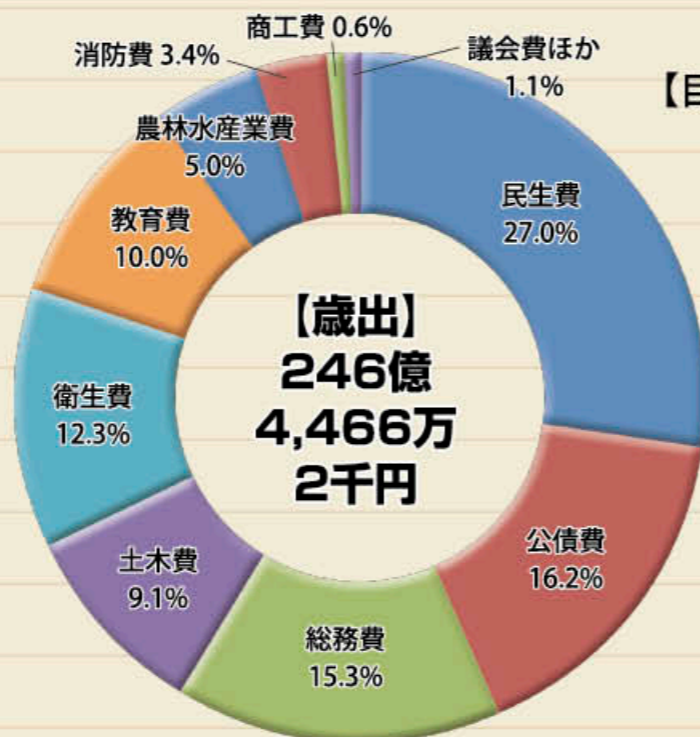
平成24年度

一般会計

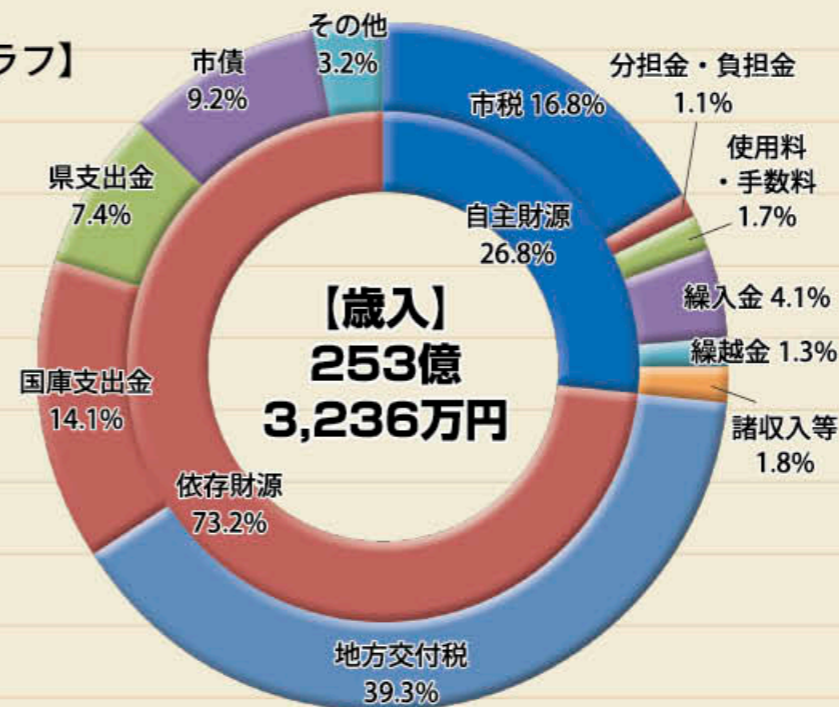
決算状況

【予算の用語解説】

- 民生費**…高齢者福祉、障がい者福祉、医療や保育費などに使われるお金
- 公債費**…公共事業を実施するために国や銀行などから借りたお金の返済に使われるお金
- 総務費**…地域づくりや交通政策、自治会活動の推進などに使われるお金
- 土木費**…土地区画整理事業や道路、公営住宅の建設・維持管理などに使われるお金
- 衛生費**…健康増進事業や母子保健事業、ごみ、し尿処理などに使われるお金
- 教育費**…公立学校や教育施設（運動公園など）の施設整備や維持管理費、生涯学習の推進などに使われたお金
- 農林水産業費**…農業、林業、水産業や畜産業などの振興に使われたお金
- 消防費**…消防署や消防団の運営など消防活動や救急活動に使われたお金
- 商工費**…商工業や観光の振興、観光施設の維持・管理などに使われたお金
- 議会費ほか**…議会の運営や労働費、災害復旧費などに使われたお金



【目的別 グラフ】



【予算の用語解説】

- ☆自主財源**
市税…市民税や固定資産税などに納められた税金
分担金・負担金…保育所の保育料や公共事業によって利益を受ける人などから納められたお金
使用料・手数料…公営住宅の家賃や住民票などの発行のために納められたお金
- 繰入金**…基金や特別会計などから繰り入れられたお金
繰越金…前年度から繰り越されるお金
諸収入等…寄附金、公有財産の売り払いや預金利子などによって納められるお金
- ☆依存財源**
地方交付税…地方公共団体が一定の行政サービスを提供することができる一定の基準により国が交付するお金
国庫支出金…市が行う特定の事業に対して、国から交付されるお金
県支出金…市が行う特定の事業に対して、県から交付されるお金
市債…市が行う公共事業などの財源として、国などから借りたお金

積立金残高見込



☆積立金（基金）の残高

基金の残高は平成24年度末で、82億7,700万円で、前年度と比較して9億1,600万円増加しました。このうち財政調整基金は、2億8,100万円増加し、42億8,700万円となり、5年連続で取り崩さずに運営することができました。

今後、大規模事業等に基金の取り崩しが見込まれており、全体的に減少傾向で推移することが見込まれます。

☆決算の内容

平成24年度の一般会計の決算規模は、歳入総額253億3,236万円、歳出総額246億4,466万2千円で歳入、歳出ともに前年度を下回る決算額となり、歳入歳出の差引額は、6億8,769万8千円となりました。このうち翌年度に繰り越すべき財源を除いた実質収支は、6億1,217万円の黒字になりました。

決算規模の推移



■平成24年度特別会計決算状況

| 会 計 | 歳入決算額 | 歳出決算額 | 差 引 額 |
|--------------|----------------|----------------|-------------|
| 国民健康保険特別会計 | 70億 2,813万 4千円 | 67億 1,943万 9千円 | 3億 869万 5千円 |
| 公共下水道事業特別会計 | 6億 6,723万 5千円 | 6億 5,656万 5千円 | 1,067万 円 |
| 農業集落排水事業特別会計 | 3,690万 2千円 | 3,389万 5千円 | 300万 7千円 |
| 国民宿舎事業特別会計 | 2億 2,390万 円 | 2億 2,211万 円 | 179万 円 |
| 温泉給湯事業特別会計 | 893万 3千円 | 853万 4千円 | 39万 9千円 |
| 公衆浴場事業特別会計 | 137万 円 | 116万 5千円 | 20万 5千円 |
| 飲料水供給施設特別会計 | 47万 4千円 | 44万 1千円 | 3万 3千円 |
| 介護保険特別会計 | 51億 3,018万 円 | 50億 3,665万 5千円 | 9,352万 5千円 |
| 後期高齢者医療特別会計 | 6億 1,248万 6千円 | 6億 1,169万 7千円 | 78万 9千円 |

■平成24年度公営企業会計決算状況

| 会 計 | 歳入決算額 | 歳出決算額 | 差 引 額 | |
|--------|-------|---------------|---------------|-----------------|
| 水道事業会計 | 収益的収支 | 7億 7,459万 7千円 | 7億 329万 8千円 | 7,129万 9千円 |
| | 資本的収支 | 2億 5,053万 1千円 | 4億 9,306万 7千円 | △ 2億 4,253万 6千円 |

資本的収入額が、資本的支出額に不足する額2億4,253万6千円は、消費税および地方消費税資本的収支調整額853万6千円、過年度分損益勘定留保資金2億3,400万円で補てんしました。

平成24年度決算に基づく財政健全化判断比率および資金不足比率

財政健全化比率の状況については、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、平成19年度決算から公表を始めています。健全化判断比率のいずれか1つでも早期健全化基準を上回った場合、自主的な改善努力による財政健全化が求められ、財政健全化計画の策定と外部監査の実施が義務づけられています。

平成24年度決算に基づいて算定された日置市の健全化判断比率および資金不足比率は、実質公債費比率が前年度と比較して0.6ポイント改善し、11.9%となりました。また、将来負担比率については、8.8ポイント改善し、37.5%となりました。いずれも国の定める基準を超える数値はありませんが、財政状況が厳しいことに変わりなく、今後もより一層、健全な財政運営に努める必要があります。

【健全化判断比率】

| 項 目 | 平成24年度 | 平成23年度 | 早期健全化基準 | 財政再生基準 |
|----------|--------|--------|------------------|--------|
| 実質赤字比率 | — | — | 12.78 (12.76) | 20.0 |
| 連結実質赤字比率 | — | — | 17.78 (17.76) | 30.0 |
| 実質公債費比率 | 11.9 | 12.5 | 25.0 | 35.0 |
| 将来負担比率 | 37.5 | 46.3 | 350.0 | — |

【資金不足比率】

| 特別会計名称 | 資金不足比率 | 経営健全化基準 |
|--------------|--------------|---------|
| 公共下水道事業特別会計 | 資金不足 はない。 | 20% |
| 農業集落排水事業特別会計 | | |
| 国民宿舎事業特別会計 | | |
| 温泉給湯事業特別会計 | | |
| 公衆浴場事業特別会計 | | |
| 水道事業会計 | | |

注1 () 内は平成23年度の数値です。注2 赤字が生じない場合は「—」で表示されます。

【用語解説】

実質赤字比率：一般会計などの赤字の程度を指標化したもので、日置市は一般会計等における実質収支は黒字であり、実質赤字比率はありません。

連結実質赤字比率：全ての会計の赤字や黒字を合算し指標化したもので、日置市は全ての会計において実質収支は黒字であり、連結実質赤字比率はありません。

実質公債費比率：公債費およびこれに準ずる額の大きさを指標化したもので、資金繰りの危険度を示します。

将来負担比率：市債（借入金）等の将来支払っていく可能性のある負担額の大きさを指標化したもので、比率が高いほど将来の負担が大きくなります。比率は前年度より8.8ポイント改善し37.5%となりました。

資金不足比率：公営企業の資金不足（赤字）を指標化したもので、日置市は全ての公営企業において資金不足はありません。

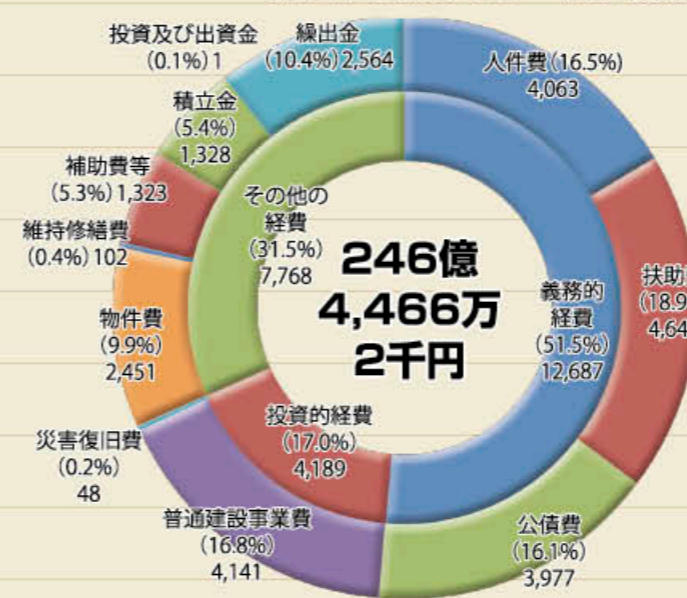
☆市債残高

市の借金の残高は、平成24年度末で304億9,631万5千円（人口1人あたり61万円）となり、前年度と比較して約11億5,912万9千円減少しました。市債の元利償還額は、平成24年度をピークに年々減少が見込まれています。また、市債の発行については、財政健全化に基づき必要最小限にとどめ、計画的な市債管理に努めていきます。

公債費の推移



歳出性質別グラフ



☆歳出（性質別）

歳出を性質別に見てみると人件費、扶助費および公債費の義務的経費が全体の51.5%を占めています。人件費については、特別職等の給与等の削減、議員発議による議員報酬の削減、職員数の削減等を行いました。指定管理制度の導入に伴う特別会計職員から一般会計職員への増員などにより、対前年度比1,300万6千円の増となりました。また、扶助費については、障がい者福祉、児童福祉、高齢者福祉の増加により対前年度比1億5,809万9千円の増となり、今後も増加傾向で推移することが見込まれています。

投資的経費については、全体の17.0%を占めています。補助事業で伊集院小学校校舎改築事業や安心子ども基金事業等による増加がありましたが、単独事業で土地区画整理事業や一般道路整備事業等の減等により対前年度比2億4,904万4千円減少しました。

☆実質公債費比率

地方税、地方交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、公債費や公営企業債に対する繰出金など公債費に準ずるものを含めた実質的な公債費相当額に充当されたものの占める割合の前3カ年度の平均値です。比率が18.0%以上の団体は、地方債発行に際し、総務大臣等の許可が必要となります。

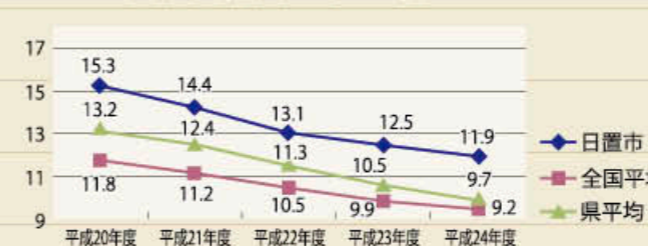
比率は、前年度より0.6ポイント改善し11.9%となりました。

☆経常収支比率

財政構造の弾力性を示す指数であり、地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年経常的に支出される経費に充当されたものが占める割合で、75%程度が妥当といわれています。指数が高いほど経常的な経費が財政を圧迫して財政構造の弾力性が低いということになります。

平成24年度は、前年度より2.6ポイント悪化し、90.1%となり、依然として高い比率で推移しています。

実質公債費比率の状況



経常収支比率の推移

